

第36回庭野平和賞贈呈理由

第36回庭野平和賞受賞者：

ジョン・ポール・レデラック博士
ノートルダム大学 クロック国際平和研究所 名誉教授、米国

第36回庭野平和賞は、ジョン・ポール・レデラック博士に贈られる。レデラック博士は、米国ノートルダム大学クロック国際平和研究所国際平和構築学名誉教授であり、博士が創設部長を務めた正義と平和構築センターがある米国イースタン・メノナイト大学から *Distinguished Scholar* (著名な学者) の特称を与えられている。現在、レデラック博士は米国の慈善団体ヒューマニティ・ユニテッドの上席研究員である。レデラック博士は30年以上の長きにわたって、紛争の調停、平和構築、そして国際的和解の促進に携わり、紛争変革における訓練を開発・発展させるとともに、五大陸の最も激しい紛争地域において、博士自ら現地で調停の支援を遂行してきた。

レデラック博士は、ニカラグア、ソマリア、北アイルランド、コロンビア、ネパール、そしてフィリピンといった、戦争で荒廃した国々の最高レベルの政府関係者や反政府勢力と協議を重ね、それらの国々の多くで、数十年続いた暴力に最も酷い影響を受けた地域のコミュニティに寄り添い続けてきた。実践者であり学者でもあるレデラック博士の学術研究は、調停役、交渉役、平和構築の実践者、トレーナー、そしてコンサルタントとしての豊かな経験から生み出されたものである。

レデラック博士は、米国インディアナ州に生まれオレゴン州で育った。両親共に教職を務めたが、父親は元牧師、母親は元看護師で、人々の心と身体の健康のために力を尽くした二人の姿がレデラック博士の人生に強い影響を与えた。ヨーロッパはベルギーとスペインで何年ものボランティア活動に携わった後、1980年、博士は米国バテル・カレッジを卒業 (歴史と平和学) し、その後コロラド大学大学院博士課程に進み、1988年、社会紛争プログラムに特化した研究で社会学博士号を授与された。1980年初頭から、博士は国際的な平和構築活動に積極的に携わり、メノナイト中央委員会国際調停部門の部長も務めた。

レデラック博士はまた、24冊もの著書、共著、編著書や、手引書、論文といった多くの平和学、紛争変革に関する学術的出版物を著述している。博士の著作は十数か国語に翻訳されるとともに、世界各地から、講演者やコンサルタント、平和構築のトレーナーとして要請されている。博士はこれまでに学会や市民組織や団体などから多くの賞を受賞している。

レデラック博士は、宗教改革の流れの中で生まれた一つの信仰の伝統、メノナイトの信者である。歴史的平和教会の一つであり、この信仰の伝統は、キリスト教徒は「平和をつくる者」たるべしとの聖書の言葉を特に重んじる。メノナイト信者は長きにわたり世界各地の戦争地域や紛争地帯で人道支援に従事し平和促進活動を行い、人々の苦しみをやわらげ、発展の後押しとなる貢献を続けてきた。

レデラック博士が成人期を迎えた頃は、植民地支配後の革命運動を通じて新しい国々が誕生しているところだった。博士の平和構築の取り組みはこうした国々に彼をいざない、博士の著書のタイトルにあるように「和解への旅」へ駆り立てたのだ。この著書で博士は、コンフリクト（紛争、対立）は人間関係で発生しうるごく自然のものであるが、平和への真の挑戦は、そこから、いかにして愛と尊厳、そして紛争に対する責任を失わず一貫した対応を選び続けることが出来るかにある、との見解を示し、この考え方方が自身の仕事の神学的基盤となっていることを概説している。後の著書の中で博士は、この考え方を道徳的な想像力と呼び、敵対する人たちをも含んだ、網の目のようにつながりあう私たちの人間関係を見通すこと、私たちの好奇心と創造性が、他者理解や回復、癒しを生み出すことを可能とさせると説く。

こうした見地から、レデラック博士は私たちの間に深く刻まれた社会的な隔たりを乗り越えるリスクを負う人たちによってのみ和解が唯一可能となると示唆している。言葉を換えれば、敵意という境界線を越えて、「敵」との新たな関係を結ぼうと手を伸ばす人々によって、和解は可能となる。和解は、紛争関係にある人たちが真理、慈悲、正義、そして平和を共有できる社会的な場の創出に向けた真摯な取り組みを求める。これこそ、神の愛が人間性の崩壊の中にも存在することを、平和構築、紛争変革、そして和解を通じて人々に伝える道を歩むレデラック博士の生涯にわたる信念と真摯な取り組みの素晴らしさである。

庭野平和賞委員会 委員長 アン・ジェウン